

日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

イェス は まなり

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒 165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558

ンターの集いが、毎月「福岡聖書教室」として開かれています。博多駅前の博多クリオコートホテルで便利な所ですので、参加されることをお勧めします。

以上、報告いたします。また九州アシュラムのためにもお祈りください。

関東支部報告 日本基督教団

天門教会 牧師 貴村かたる

この一年、コロナ禍により生活環境の変化と共に教会礼拝様式も Web 配信など、自宅礼拝を強いられた教会も多かったようです。事務局にアシュラム誌二〇一号の感想が送られてきました。「礼拝数が減って、自力で体当たりでこなす事態が増えた今、アシュラム誌が届いて霊的な思いが蘇り有難かったです」との某牧師からのお便りです。各集会も人数制限などで緩和されておりますが、クラスターを警戒し十分な感染予防がなされつつ、少人数の集いもチラホラときます。しかし油断はできません。百年に一度の疫病、世界が一丸となっても未だにウイルスには勝てません。主の御手が降るまで御心を求め、主の御旨の一端を知る

理解力が照らされますように。いつかは収束します。「目を覚ましていなさい」という御言葉を憶え、新しい希望に満ちた神様の恵みをこの世に伝えることのできる一人になりたいと切に祈ります。

日本クリスチャン・アシュラム連盟

理事長 **横山義孝**

献金によってこのアシュラム運動が支えられるようにお祈りください。天門教会の貴村かたる師が主事として労をとってくださいています。各地区アシュラムとの連絡・調整、アシュラム誌の発送、連盟理事会の実施等です。全国のアシュラム運動の拡充発展のために、年間最低二百万円（連盟費百万、各地区活動費五十万、その他五十万）が必要。従来はアシュラム参加者の献金、各種の特別献金等によって支えられてきましたが、今は皆様の祈りの献げもの以外に方法はありません。宜しくお願いいたします。（ニコリントク、ウ）主にある皆様の上に重ねて祝福をお祈り申し上げます。

献金のお願ひ

前号（二〇一号）で振込用紙を同封するのを忘れました。祈りの献げものをよろしくお願いいたします。

しつように祈る

ルカ福音書11章1-13節には、祈りについて教えられた主イエスの言葉があります。三つに分かれていて、①は2-4節、ルカ版の「主の祈り」です。②は5-8節、真夜中に友達に「パンを三つ貸してください」としつように求める人と、しつように求める友達のたとえ話。③は9-13節、「求めなさい。そうすれば、『良い物（聖霊）が与えられる』という命令と約束です。今回は②の「たとえ話」と③の「命令と約束」に注目しましょう。たとえ話は次の通りです。

「また、弟子たちに言われた。『あなたがたのうちのだれかに友達がいて、真夜中にその人のところに行き、次のように言ったとしよう。「友よ、パンを三つ貸してください。』」

「旅行中の友達がわたしのところに立ち寄ったが、何も出さぬのではないのです。」すると、その人は家の中から答えるにちがいない。「面倒をかけたください。もう戸は閉めたし、子供たちはわたしのそばで寝ています。起きてあなたに何かをあげるわけにはいきません。」しかし、言っておく。その人は、友達だからということでは起きて何か与えるようなことはなくても、しつように頼めば、起きて来て必要なものは何でも与えるであろう。』

この話の中で、「あなたがた」と言われているのは「祈りを教えてください」と主イエスにお願いした弟子たちです。主イエスはたとえ話を通して弟子たちに、「あなたがたの祈りは、真夜中に友達（父である神さま）に『何

【お詫びと訂正文章の掲載】

前号（二〇一号）一ページの清水 潔牧師の文章中の送り仮名に間違いがありました。訂正文字を改めて掲載致します。誠に申し訳ありませんでした。

上段七行目（誤）だったそおです。

（正）だったそうです。

上段十四行目（誤）言ったそおです。

（正）言ったそうです。

上段十七行目（誤）先う

（正）先う

下段二十五行目（誤）力ずけられて

（正）力づけられて

編集後記

九月末、アシュラム誌の編集会議（委員は岡山、川村兄、石井兄）を持ちました。日本アシュラム誌は、日本クリスチャン・アシュラム連盟の皆さんの霊的な交わりを深める大切なツールであり、情報交換誌と考えています。

今後は、次の基本方針で編集作業を進めていくことにしましたので、ご報告します。

巻頭言 十人の牧師の理事がいますので、順番に担当します。

霊想 各地区（函館 関東 関西 九州）の理事以外の牧師に依頼する。

証し 各地区の信徒の方に依頼する。

各地区の報告 それぞれの地区の様子や事務局報告を掲載する。

発行は今まで通り、年四回（一月・四月・七月・十月）編集にあたる三人のためにお祈りください。

（岡山敦彦）

と求めています。『しつように祈る』とは「カナンの女」が欠けています。「しつように祈る」とは「カナンの女」のようにへりくだって、それでもなお、信賴して求めるといこと

と求めれば必ず与えられる」と教えられたのです。わたしにとって肝心なのは、「友達（父なる神さま）の所へ行つてしつように求める」ことです。弟子には、飢えている友に差し上げるパンがありません。けれど、弟子には頼りになる友達（父なる神さま）がいるのです。その友達（父なる神さま）は必ず与えてくださるのですから、しつように祈ればよいのですが、わたしにはそれが欠けています。「しつように祈る」とは「カナンの女」（マタイ15章27節）のようにへりくだって、それでもなお、信賴して求めるといこと



函館栄光キリスト教会

牧師 佐々木 雄次

でしよう。

すぐ与えられないには理由があるのですから、神さまに求めることをやめてしまつてはいけません。主イエスは、最後に「求めよ、さらば与えられん」という命令と約束をされましたが、「与えられる」のは、「パン」ではなく、「良い物」つまり「聖霊」であると言われました。わたしたちは、父なる神さまにしつように求めることを通して、聖霊をいただくのです。そして、聖霊による愛、喜び、平和、寛容…を友と一緒に味わうのです。その時、パンも必要なら添えて与えられるに違いありません。

霊 想

「多くの声援と伴走」

コリントの信徒への手紙 第一

十二章一〜三節



日本基督教団 隠退教師

安藤 脩

「このようにおびただしい証人の群れに囲まれている」(・1)という多くの証人とは、十一章に記されている「信仰によって」生きた旧約の指導者、預言者たちです。アベル、エノク、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、モーセ、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル。これらの信仰者の名を黙想してみましよう。皆さんは何を連想され、何を感じるでしょうか。

彼らは皆、信仰のゆえに神に認められた人々です。彼らは神が約束してくださった約束の地・神の都を待望し続けた旅人です。彼らはこの世にあつても名を知られた成功者にもなりませんが、それ以上に、試練に出会い、その苦しみを信仰によって乗り越えた人々です。だからこそ、信仰によって生きることがどんなに幸いなことであるかを、後世の人々に証しする証人となっているのです。しかし、「約束されたものを手に入れませんでした、はるかにそれを見て喜びの声を上げ」(11章

13節)とありますように、喜びの声をあげられるのは信仰によつてです。でも、現実には、約束された神の都に未だ入っていないのです。

では、神は彼らを見捨てているのでしょうか。そうではありません。「神は、わたしたちのために、更にまさったものを計画してくださったので、わたしたちを除いては、彼らは完全な状態に達しなかったのです。」(11章40節)とあるとおりです。これは驚くべき、私たちがへの恵と責任です。旧約の信仰の指導者たちの完成が、なんと、新約に生きる私たちに託されているのです。

私たちは御言葉の通り「すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜か」(・1)ねばなりません。「ねばならない」と言われると重たく感じます。そうなのです。私たちに課された責任は実に重いものであることを自覚しなければなりません。しかし、その責任



アシュラムの証し



日本プロテスタント連盟 早良キリスト教会 今村 まさあ

さかのぼること六十年、福井開拓伝道に励んでいた夫は、スタンレー・ジョーンズ先生との出会いに恵まれ、以来アシュラム運動に参加したと存じております。その後、導かれた大阪、北九州、高松、名古屋、福岡のそれぞれの教会で、アシュラムによる研修会を実践し、信徒の成長、交わりを祈り励んでおりましたが、一昨年、八二歳で(五九年の牧師生活)主の御国に召されました。

私自身は早良教会への赴任を機に、九州アシュラムに導かれ毎年恵まれております。昨年のアシュラム(助言者は榎本恵師)には、特別な思いで参加しました。

二三歳のとき結婚、以来、牧師館で生活させて頂き、五二歳のとき神学校へ、七四歳のときに牧師按手式に与り感謝に尽きるなか、気がかりは最初の福井教会のことでした。アシュラムの数日前に、遂に閉鎖かという情報

が入り、何としても閉鎖だけは避け、次の牧師が立てられるまでの繋ぎを何かできないか・・・。開心のときにそのことを打ち明けました。兄弟方はそのことを熱心に聞いて下さり折って下さいました。(使徒10章32節) 結果は、ハレルヤ! 年金が貰えるようになったら、苦闘している教会へ・・・と祈っておられた、平良憲誠牧師夫妻がコロナ禍もいとわず四月に赴任され「福井伝道支援会」をたてあげ、既に老朽化した会堂を解体し、牧師館を借り会堂として礼拝を捧げつつ、再建を全力で展開してくださっています。「イエスは主なり!」

九州支部報告

日本同盟基督教団

大分恵みキリスト教会 牧師 岡山敦彦

コロナの影響でアシュラムの各地の集會もほとんど中止を余儀なくされています。九州アシュラムも今年も中止せざるをえませんでしたが、年に一度、顔を合わせて、みことばから教えられ、黙想し、交わりを楽しみにしていた私たちにとっては、とても残念なことでした。

以前にもお知らせしましたが、今まで会場として使用していましたカトリックの宿泊研

修施設「福岡黙想の家」(宗像市)が昨年一二月で閉鎖されました。アシュラムには最適の場所でしたので残念です。それで新しい会場を探す必要があります。一か所の候補の場所がありますので、見学に行くことにしています。新たな場所での再会を楽しみにしています。

九州アシュラムに素晴らしい助っ人が与えられました。池の上キリスト教会で奉仕をされ、アシュラムの事務局の仕事をして下さっていた石井寛兄が、教会の働きを辞され、昨年四月に佐賀県唐津市に引越されました。日本クリスチャン・アシュラム連盟と関東支部にとっては大きな痛手ですが、九州支部にとっては神様が素晴らしい助け手を送ってくださいました。石井兄とは以前から親しい交わりがありましたし、アシュラム誌の編集では一昨年川村兄と石井兄と私の三人で奉仕しています。編集後記にも書きましたが、昨年九月に三人が大分県に集まり、アシュラム誌編集のことだけでなく、今後のアシュラム運動について自由な話し合いと交わりと祈りの時を持つことができました。

更に感謝なことは、アシュラムセンター(通称私たちは榎本アシュラムと呼んでいます)との交流が深められつつあることです。二つのアシュラム運動が展開されていますが、どちらも高齢化しています。若い力を必要としています。幸いなことに九州では、交流が進められています。九州では、アシュラムセ